

Vol
180

株式ファンドの選び方 インデックス型 vs. アクティブ型、 そして“コンセプト型”

今年に入り、日米株式市場の上昇に一段と弾みがついてきました。米国では堅調な経済指標やAI(人工知能)を巡る楽観的な見方から、半導体関連など大手ハイテク企業の株価が上昇したことなどを受け、S&P500種指数は約2年ぶりに史上最高値を更新しました。また、日本では米国株高や円安の進行などを受け日経平均株価は3万6,000円台を付け、バブル期の1990年2月以来およそ34年ぶりの高値水準で推移しています。(2024年1月19日時点)

そこで、今回は資産運用のエンジン役となる株式ファンドの選び方として、3つのカテゴリーをお伝えします。それは、「インデックス型」、「アクティブ型」、そして、第3の軸として押さえて頂きたい「コンセプト型」です。

今年から新しいNISA(少額投資非課税制度)も始まり、コールセンターでは投資信託の選び方に関する問い合わせも増えているので、ぜひ参考にしてください。



株式ファンドを2軸ではなく3軸として整理する

① インデックス型

一つ目は「インデックス型」と呼ばれるカテゴリーです。例えば日経平均株価やTOPIX(東証株価指数)など一般に公表される株価指数と同じ動きをするように運用を行なうタイプのファンドです。日経平均株価が1%上がった日はファンドも1%上がり、下がった日も同じだけ下がるように運用されています。

② アクティブ型

二つ目は「アクティブ型」と呼ばれるカテゴリーです。「アクティブ型」に分類されるファンドは、一般的に目標とする指数(ベンチマーク)を設定し、それを上回る運用成果を目指します。「アクティブ」だからといって積極的に売買を行なうという意味ではなく、なんらかの指数を意識しながら違いを出そうと工夫するタイプのファンド、ということです。

例えば8割程度をTOPIXなどの指数と共通にしながら、2割の範囲で良いと思う企業を指数の構成比率よりも多めに買ったり、悪いと思うものを少なくしたりするというイメージです。アクティブ型は市場分析や銘柄調査費等がかかるため、インデックス型に比べるとコストが高くなる傾向があります。

③ コンセプト型

しばしば、「インデックス vs アクティブ」の議論が出てきたりしますが、この2軸だけではなく、違う次元のカテゴリーが必要ではないかと考えています。それは「コンセプト型」とでもいうべきカテゴリーです。日興アセットは資産運用のエンジン役となる株式ファンドに「インデックス型」と「アクティブ型」の2軸ではなく、第3軸の「コンセプト型」というカテゴリーの視点を持つことをおすすめしています。



日興アセットマネジメント

第3の 카테고리「コンセプト型」とは

「コンセプト型」を端的に言うと、「ベンチマークを宣言」するのではなく、何をもって銘柄を絞り込むのかの「考え方・コンセプトを宣言」しているファンドのことです。

例えば①

コンセプト

「なんとかロボティクス株式ファンド」

「世界的な労働人口の減少は確実に予想される未来であり、その裏返しとして必然な自動化ニーズを広範にとらえることで銘柄選定を行ない、長期的な資産増加を目指します」



例えば②

コンセプト

「なんとかフィンテック株式ファンド」

「当ファンドは、A I（人工知能）などの進展がもたらす金融業界における地殻変動に注目し、長期で大きなリターンとして獲得することを目的としたファンドです。」



このように「投資コンセプト」を明確にし、それに則した運用を行なうファンドでは、特定のベンチマークを意識しておらず、また銘柄を選ぶ際の基準や想定する時間軸も独特です。しかし、ファンドが掲げるコンセプトと時間軸に共感できれば、たとえ短期的な相場変動があったとしても右往左往することなく、じつくりと長期保有できるのではないのでしょうか。

また、コンセプト型はアクティブ型と同様に市場分析や銘柄調査費用等がかかるため、インデックス型に比べるとコストが高くなる傾向がある点は押さえておきたいポイントです。

メガトレンド(巨大な潮流)投資に「コンセプト型」の株式ファンドを

日興アセットは世の中を変えるイノベーション(変革)のことを「メガトレンド(巨大な潮流)」と呼んでいます。「ロボティクス技術」や「フィンテック技術」に着目した投資コンセプトは、いわば「メガトレンド」への投資とも言えます。

長期の資産形成のひとつとして、株式ファンドを選ぶ際には「インデックス型」「アクティブ型」に加え、将来の大きな成長期待を長期の時間軸で捉える「コンセプト型」ファンドへの投資もぜひ検討していただきたいです。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00